

## アーウィン・エルマン 氏

1957年モントリオール生まれ。  
自立支援のための機関PARC(パイプ青年期リソースセンター)創設者の一人でセンター長を25年以上務める。  
1999年、大阪パワーの招聘により、PARCの若者たちと共に初来日以後、数回日本を訪問している。日本からも多くの研究者や職員がPARCやアドボカシー事務所を訪問するなど、アーウィン氏の日本の子ども家庭福祉への貢献度は高い。  
2008年より、オンタリオ州児童青少年アドボカシーに就任し現在に至る。



### 学 歴

カールトン大学 政治学名誉学士  
トロント大学 教育学学士 教育学修士  
ゲルフハンバー大学 名誉学士(青少年ケア)

### オンタリオ州児童青少年アドボカシー事務所

2008年オンタリオ州児童青少年アドボカイト法により「青少年とパートナーとして協力し問題を解決する州アドボカイト」にアーウィン氏が任命される。青少年の声を聴き彼らの参加を通じて行政に変化をもたらすという活動を青少年たちとともに広げている。

## 菊池 幸工 氏

早稲田大学社会科学部卒。トロント大学修士課程修了M.Sc取得。  
1993年に故高橋重弘先生とトロントで知り合い児童福祉の分野に関わる。  
日本の児童福祉関係者の研修コーディネーター及び通訳。  
カナダと日本の社会的養護の子ども国際交流コーディネーター。  
日本で「カナダの子どもの権利擁護」に関して、ワークショップやセミナー・講演等を行っている。



### メッセージ

私は、過去20年以上に渡って日本とカナダの児童福祉関係者の交流をコーディネートしてきました。子どもの権利擁護機関アドボカシー事務所や自立支援機関PARCなどに、日本から多くの関係者が研修や交流に来ました。一方、カナダからも社会的養護の若者が数回日本を訪問して、日本の社会的養護の若者と交流をしてきました。この間、カナダでは若者の声が政治家を動かして、法律を改正させるほどにまで発展しています。今や、政府は子どもに関わる政策決定には、必ず子どもから直接声を聴くことを義務づけています。

日本から来た子ども達は、カナダで子どもの権利を学び、大人たちに声を聴いてもらい話し合う経験を通じて、自分に自信を取り戻し、はっきり意見を述べそして聴き、将来に夢を持ち始めました。たった一週間のカナダ滞在で、彼らが大きく変わるのを何度も目撃しています。自分と同じ境遇にいるカナダの若者に出来て自分たちに出来ないはずはないと思いはじめています。まさに、彼らの潜在能力が開花した瞬間です。

日本は、今年、改正児童福祉法に「子どもの権利」が明記されました。そこへ、アドボカシー事務所所長のアーウィン氏が訪日します。この機を逃す手はありません。日本でも「権利ベースの文化」や「子どもの声を聴く」、「子どもの参加を促す」、「子どもと共に行動する」基盤を作る絶好のチャンスです。この最高の機会に、あなたも職場で、学校で、地域で子どもの声を聴くためにアクションを起こしましょう。「子どもの可能性のために私はアドボカシー活動をする」と言ったのは、アドボカイトで先住民のローラ・アアントさんです。子どもの潜在的可能性を信じ、子どもを信じて日本の未来が子どもたちにとって希望の持てる社会を子どもたちと共に築いていきましょう。

## NEXT STEP 子どもの声を聴こう 参加申込書

—職場で学校で地域で子どもの声を聴くために—

所 属	
ふりがな 氏 名	
役職名	
連絡先	

お申込み先

Email [advocate.seminar@gmail.com](mailto:advocate.seminar@gmail.com)  
FAX 03-3289-0314

お申込み締切

平成29年11月30日(木)